

第6回 科学隣接領域研究会（2017.11.13）

科学と倫理 – その3 –

「宇宙倫理学」



第6回科学隣接領域研究会について

日時：2017年11月13日（月）10：00～12：30

場所：日本科学協会会議室（東京都港区赤坂1-2-2 5F）

参加者（敬称略）

科学隣接領域研究会	リーダー	金子 務（大阪府立大学 名誉教授）
	サブリーダー	酒井 邦嘉（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
	メンバー	前野 隆司（慶應義塾大学大学院 SDM 研究科 委員長・教授）
		安藤 礼二（多摩美術大学美術学部 教授）
	〃	植木 雅俊（NHK 文化センター 講師）
	〃	岡本 拓司（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）
	〃	正木 晃（慶應義塾大学文学部 非常勤講師）
	〃	廣野 喜幸（東京大学大学院総合文化研究科 教授）
特別講師		神崎 宣次（南山大学国際教養学部 教授）
事務局	会長	大島 美恵子
	常務理事	中村 健治
	業務部マネージャー	石倉 康弘
	〃 スタッフ	豊田 悠也、堀籠 美枝子

資 料

- ・神崎先生資料 宇宙倫理学研究について（神崎先生からの活動紹介資料）、プレゼンテーション資料
- ・事務局資料 神崎先生紹介資料
科学者三原則、科学隣接領域研究会アンケート（案）

内 容

◆大島会長のご挨拶

◆神崎先生のご講義「宇宙倫理学」と質疑応答

神崎先生のご専門は倫理学で「宇宙倫理学」というタイトルでご講義くださいました。

宇宙倫理学の基本的な論点は、宇宙開発の価値や意味、コストの正当化、宇宙飛行士の専門職倫理、デュアルユース（軍事と民生）であり、全体的には環境倫理寄りの話をされました。

「宇宙船地球号」という言葉（有限な地球に閉じ込められた人類という意味の比喻）を切り口に、歴史を振り返りながら、宇宙開発に社会的利益はあるのか、研究者としての問題ともいえる「人類全体の利益」と「国家間/企業間競争」の混在、テラフォーミング（惑星地球化計画）とジオエンジニアリング（地球工学）の倫理問題の比較、宇宙を含めた環境倫理学への影響、デュアルユース（軍民両用技術）について問題提起されました。

講義終了後は質疑応答があり、活発な議論が交わされました。

◆過去助成者への「倫理観アンケート」について

事務局から過去助成者の「倫理観についてアンケート」を提案し、アンケート（案）を基に研究会メンバーと議論の結果、以下について決定しました。

- ・11月（アンケート作成）、12月（アンケート実施）、1月（回答者の中から数名研究会に参加）
- ・対象は直近3か年の笹川科学研究助成奨励賞を受賞した研究者
- ・プライバシーを考慮し、記名するかは選択制にし、活用方法について明示する

※無断転載・複写はご遠慮ください。

- ・Web 上で回答しエクセルに落とせるようする
- ・研究者の倫理を強化・醸成していくための選択肢として「罰則の強化」を増やす
- ・最後に「研究倫理」に関する自由記述の欄をつける
(その他の意見)
- ・アンケートもしくはインタビューで、協会を取り巻くステークホルダーのご意見も聞きたい

◆「科学者三原則」について

研究会サブリーダーの酒井先生は、「科学者三原則」資料を基に、今後検討を重ね収束できるならば「科学者三原則」を発表して、倫理目標とすることで、科学者が何かジレンマに差し掛かった時に踏みとどまるきっかけになってほしいとご説明されました。研究会メンバーと特別講師の神崎先生は、三原則にする事の意味や詳細内容など活発に議論し、今後議論の内容を「科学者三原則」に反映させ、セミナーで発表し、HP に乗せて広く周知して行くという方向性が決まりました。

以上